

2010年事業報告

1. 事業実施の方針

エチオピアでの緑化や水資源開発に関する事業を推進するとともに、国内においてはその広報活動、募金活動、環境に関わるキャンペーン事業、環境ネットワーク事業、およびそれらに付随する活動を行う。

2. 事業計画

①海外事業／エチオピア連邦民主共和国での緑化事業や水資源開発事業

事業名 決算(ブル)	事業内容	実施日時	実施場所	報告内容
学校での環境教育 (962)	植林育林事業 (環境クラブ組織 ⇒畑作り⇒野菜作り⇒木の苗作り⇒植林⇒堆肥作り⇒植林後の管理)	通年	ラリベラ小学校 ゲテルゲ小学校 ナクテラブ小学校	ラリベラ市内の3校の小学校において、植育林を通じた環境教育を実施。各校では09年に引き続き、野菜や苗木の生産、堆肥作り、植育林に加え、アグロフォレストリーの実践を行っている。2010年は、学校指導者向けの研修等、特別な対策は講じなかったが、アグロフォレストリー手法で栽培された野菜等が学校のバザーで販売されており、学校にとって参加への強い動機付けとなっている。
	環境コンテスト (絵画、詩、作文等)	3月	ラリベラの小学校3校と村人	ラリベラ市内の3校の小学校にて、環境コンテストを実施。参加作品のうち、絵画、作文、詩の各分野での優秀作品を3作品ずつ、計27名の生徒に対し全校集会時に表彰式を行った。
	自然観察会	10月	ラリベラの小学校2校	2010年はラリベラ市内の2校(ラリベラ小学校、ゲテルゲ小学校)を対象に実施。今回約100人強の生徒が、当団体が管理する苗畑を訪問。苗木の育て方や移植の仕方、堆肥の作り方などを学び、自宅の周囲で植樹ができるよう指導した。
環境教育ノートの制作 (70,679)	表紙と裏表紙に植林へのメッセージを刷り込んだノートを製作配布する。	3月	アジスアババ、ラリベラ	環境教育ノートの第4版を1万部制作した。環境教育のセミナー参加者や学校の環境クラブの子供たちなどに配布して、ノートを見ることで緑化に対する意識を高めてもらうようにした。
学校建設事業 (20,026)	カンカニ小学校建設	通年	カンカニ	カンカニ小学校の校舎の整備及び増築工事に関して、引き続き支援を行った。石材、木材など現地で調達できるものは、地域住民が負担するなど、コミュニティー主体の整備事業を行うことができた。
生存率調査 (000.00)	植林後の苗の生存率調査	1月	全植林地	09年度の植林分に関して生存率の調査を実施。植林後に水遣りを施した苗木に関しては、約70%の生存率を達成した。
苗木生産 (151,554)	ラリベラ市、ラスタ郡に整備した3つの農園にて、500,000本の苗木を生産する。	通年	カンカニ、シマノ、シユムシャハ	地域参加型植林のために、村人の収入向上につながる樹種(果樹、建築材等)を中心に生産するよう努めた。また、翌年度以降の生産能力拡大を見据えた農園管理を行った。それぞれの農園での苗木の生産は、シマノ37万本、シユムシャハ24万本、カンカニ4万本を達成した。

大規模植林 (522,519)	ラリベラ市、ラスタ郡に確保した植林地に、大規模な植林、育林を行う。	植林：7、8月 育林：通年	ラリベラ市内及びラスタ郡の植林地 アビセグ、イムラハクリストス、サルズナ、ブルバラ、カンカニ他	これまで10年間で40万本の植林をしてきたフー太郎の森基金だが、1年間に50万本、3年で150万本の植林を目指す。2010年は当面の目標であった50万本を上回る51万6千本の植林地数を達成。植林地面積も117ヘクタールへ。水の便の良い植林地サイトでは、植林地後にも水遣りを行い、活着率の向上に努めた。主な植林地での植林地本数は、 メダゲ 6万6千本 アビセグ 3万5千本 イムラハクリストス 6万本 サルズナ 1万3千本 ゼイトウェラ 4万7千本 カンカニ 2万1千本 ホテル（ラリベラ市内）4万6千本 政府支援分 10万本 となった。
	環境関連・有志団体支援	通年	ラリベラ周辺	植林地に取組む有志の団体に対し、広く支援を行った。2010年も積極的な活動を展開している4つのクラブに対し、資機材や苗木の提供、育林地用の水道管を引くための支援などを行った。これら団体には、「HIV感染者の支援団体」や「孤児の生活支援を行っている教会関連団体」等が含まれている。
地域参加型植林 (111)	マイクロクレジットの手法を生かした、地域参加での植林地を行う。同時に参加者への定期的な支援と研修を実施する。	植林地：6月～7月 育林地：通年	ラリベラ市内	FFFが提供する苗木を2,000本植えれば金利をゼロにし、1年後に活着率が7割を超えれば、元金の返済を免除するというプランであった。しかし資金の回収、運用等を委託する予定であったアムハラ小規模融資金庫（ACSI）の協力を得られず、実施できなかった。2011年はカウンターパートを協同組合に鞍替えし、再構築を目指す。
	オーナーシップ意識を持たせた緑化事業としてグリーンキャンペーンを行う。	植林地：6月～7月 育林地：通年	ラリベラ周辺	ラリベラ市内を中心に5つのカバレで合計4,500本の苗木が植林地された。農業局の地域調査員との協力体制を作ることにより、参加家庭の植林地の支援、管理を行っている。
衛生問題改善事業 (41,674)	サニテーションプログラム	通年	ラリベラタウン・01カバレ	カバレ01の各家庭を9つのグループに分け、各グループのリーダーが主導する形で衛生環境の向上に取り組んでいる。2010年も各グループの活動にランク付けを行い、上位3グループ、およびグループリーダーに対し表彰を行った。
広報活動 (0.00)	サッカー教室の開催	随時	ラリベラ、アディス・アベバ	ベガルタ仙台のサッカー・コーチを招聘してのサッカー教室開催、及びトーナメントの開催の準備を行った。2011年以降、隔年のコーチ招聘、毎年のトーナメント開催が決定された。
支援者対象のスタディツアー ※	活動地視察 植林地 古着配布	7月24日～31日	ラリベラやゴンドールなど	今回の参加者は4名だったが、リピーター2名、他2名は長い間フー太郎を支援くださっている方々だった。以前参加の時に植えたラリベラ小学校がユーカリの林になってしまい、在来種に転換するために伐採した。気の毒ではあったがFFFの方針を納得してもらった。

※スタディツアーの会計は、国内事業費として処理しています

換算額：1ブル=6.76円

②国内事業／広報活動、募金活動、環境に関わるキャンペーン事業、環境ネットワーク事業

事業名 予算/決算(円)	事業内容	実施日 時	実施場所	その他（重点目標等）
第12回全国キャンペーン (500,000 /693,508)	全国の支援者にお礼と現地活動報告をし、さらなる支援を呼びかける。	7月24日～8月8日	東京、横浜2ヶ所、船橋、鴨川、糸魚川、安曇野、上田、松本、塩尻、伊那、駒ヶ根、飯田	「世界遺産の村にバキュームカーを送ろう」をテーマに関東甲信越地方限定でキャンペーンを実施。塩尻会場でキャンペーン通算200回目を記録。地域限定でこまめに歩くパターンに変更して2年目になり、新たな人たちにもつながりができたが、主催者探し、集客にかなり苦勞を伴った。
サッカーコーチ派遣 (1,800,000 /1,387,560)	2011年1月にベガルタ仙台のコーチ2名をエチオピアに派遣するため、募金の呼掛けやイベントなどを実施する。	1月～12月	仙台市、相馬市など	3月の開幕戦よりスタジアムでコーヒーを販売しながら募金を呼掛け、寄付金は1,102,998円と目標を上回った。マスコミ派遣は東日本放送が決定し、55分の番組作りと、想定外の成果となった。相馬市の子供たちとエチオピアを繋ぐため、ベガルタコーチによるサッカー教室やタイムカプセル作りを相馬市で開催、多くのサッカー関係の古着も寄せられた。
現地の自立に向けたプログラム (100,000/0) (350,000/0)	2020年に現地へのプロジェクト本部移管を目指し、現地の自立のための事業を検討する。	通年	事務局	ラリベラ郊外のシマノでコットン工房、加工食品などによる村落開発のプログラムを立案。日本女子大学でのプレゼンテーションや講演などで話をしながら内容を練る作業をした。
	ドライフード商品の開発	通年	事務局、東京など	日本女子大学の食物学科にエチオピアの食材を提供。食品開発をテーマにする学生が決定した。
チャリティイベント (150,000/0)	基金の活動に関する講演会や出前講座、読み聞かせ支援	随時	全国	学校などで話をする機会が多いが、去年は日本女子大学の卒業式を皮切りに、大学、付属校、同窓会などで講演会をアレンジしてもらった。2011年入学案内にも紹介が決まった。
森に行こうよキャンペーン (20,000/0)	ツリーハウスで遊ぼう	通年	ホームページなど	テラスの板が抜けてくる危険があり、一般の入場はお断りせざるを得なかった。
	どんぐりを育てよう	随時	ホームページ	今年はマテバシイを植えたいという希望者が1件もなかった。
支部活動 (100,000 /2,159)	支部の活動の活性化	通年	全国17ヶ所	5月にエチオピア人スタッフのシサイ・マラグが日本で研修をした際、相馬、二本松、福島、松本、君津で研修先の検討・案内や報告会、民泊などの受け入れをしてもらった。
地域に根差した活動と組織作り (20,000/0) (20,000 /5,210) (20,000 /6,000) (20,000 /20,000)	ボランティアスタッフの活動整備	通年	相馬ならびに周辺市町村	ユアテックスタジアムのボランティアはサッカー観戦がついてきたので、好んで行く方があった。仙台発のボランティアもお願いできた。
	地域の活動への参加	随時	東北	わくわくワールドフェスタ in そうま、そうま市民まつり、青空フリーマーケット、福島環境エネルギーフェア2010、ふくしま地球市民フェスティバル2010に参加
	国際NGO、環境団体とのネットワーク形成	随時	東北、福島県、相双地区	うつくしまNPOサポートセンター、ふぐネット加入継続。ふぐネット総会を相馬で受入れた。
	サッカー教室開催	春	相馬市港湾グラウンド	相馬市サッカー協会と共にベガルタ仙台のコーチを招いてサッカー教室を開催。フー太郎の活動やエチオピアへの理解が深まった。

研究活動 (50,000/0)	研修、その他のセミナー参加	随時	海外、全国	国内外の研修に理事、専従職員、ボランティアスタッフを派遣して、組織としての力をつけていくことを考えたが、希望者がなかった。
資金調達システムの改善 (100,000 /6,279)	会員拡大キャンペーン	通年	事務局、支部など	チラシは振替用紙付きのものに切り替え、新たな会員獲得のためベガルタとの共催事業を進めたが、支援金に流れ、入会までには至っていない。新規会員は例年の4分の1の24名だった。会費の自動払込の利用者は83名。こちらは継続してくださる方が多いので、自動払込の獲得がポイントになる。
(100,000 /7,000)	記念樹キャンペーン(1本2,000円)	通年	事務局、支部など	2010年の記念樹申し込みは688本だった。会員が伸び悩んでいる中、変わらず支援金を集めている。新たなチラシの製作が手つかずだった。
(100,000/0)	募金箱大作戦	通年	事務局、小玉理事、松本支部など	紙製の組み立て式募金箱を製作し、「ちゃぐりん」読者、支部などを中心に提供するはずだったが、申込みがなく中断した。また松本支部の陶製募金箱の追加が届いて配布もお願いした。
(50,000/0)	一粒の種募金	随時	全国	小学生向け雑誌「ちゃぐりん」5月号で一粒の種募金の呼びかけをし、フー太郎特製紙貯金箱を送って子供達がフー太郎の活動に参加できるよう考えていたが、問い合わせが全くなかった。
(100,000/0)	企業との協力関係を推進する	通年	事務局	ベガルタ仙台との連携は、様々なチャンスをフー太郎に与えてくれた。コーチ派遣事業に関して、浪江町の㈱ニーズがスポンサーになってくれた。JICA、東日本放送とも緊密に連携できた。
(50,000/0)	助成金申請	随時	事務局	2009年10月からスタートしたJICA草の根技術協力事業の4半期ごとの会計処理を円滑に進めた。また「自立に向けた事業」のための助成金の検討を行い、共同事業者の可能性のあるところに積極的にアプローチをかけた。
広報活動の充実 (150,000/320,045)	会報発行	年4回	事務局	2010年は第59号～第62号を発行。フー太郎応援団のメッセージが少なくなってきた。会員の皆さんと双方向でコミュニケーションできるよう工夫をしていきたい。
(200,000/223,180)	広報戦略の検討	通年	事務局	HP改訂、いんぷおの連載を継続した。エチオピアへのコーチ派遣のチラシは2010年分を1万枚印刷し、全て配布した。ベガルタ杯トーナメント戦に配布するTシャツに、FFFのロゴを入れてデザインし、ラリベラに送った。
営利事業 (400,000/156,056)	キャンペーングッズの販売	通年	事務局、支部など	コーチ派遣の旅費確保のために寄付金付きコーヒーの販売に力を入れた。2010年仕入れ分198パックは完売した。ユアテックスタジアムでベガルタマフラー付きの動物が好調に売れた。またキャンペーンではタイで仕入れた洋服が売れたが、売れてほしいフー太郎の本は発売時以降あまり動かなかった。
(100,000/0)	フー太郎のお店オープン	通年	事務局	ホームページ上、あるいはネットでショップをオープンし、エチオピアのグッズやコーヒーなどの販売を通じて、フー太郎の活動に理解を深めてもらうことを考えているが、なかなか進めずにいた。